

我が家で暮らす

ふじもと在宅緩和ケアクリニック
 埼玉県所沢市喜多町16-7第1武井ビル4階
<http://www.zaitaku-kanwa.jp>

ふじもと在宅緩和ケアクリニックが開院して2年あまり。多くの患者さんにご縁を持ちましたが、まだまだ家に帰りたいのに帰れない患者さんが数多く居られます。これは、医療者にも患者さんご家族にも、在宅での療養に関する情報が不足していることが原因ではないでしょうか。当地域での緩和ケアの普及啓発のため、本誌を発行することにしました。

病気療養しながら家で暮らすために

病院で受けている治療の形のままで帰ることが出来ないとおきらめていませんか？
 家には家にあった治療の方法があり、それはご家族の支える形態によっても違ってきます。病院という場所は、患者さんが病院の環境に合わせなければならないのですが、家はその逆です。医療や介護が、患者さんとそのご家族に合った形をオーダーメイドしていけるのです。家に帰りたい、あるいは帰ってあげたいと思われる場合は、まず在宅医に相談してみてください。病院では提案されなかった選択肢が広がる場合もあります。



退院には準備が必要です

- ・ 医師（入院施設担当医）と医師（在宅医）の治療方針の調整
- ・ 家の環境を整える（介護保険の手続きや、介護用品の手配など）
- ・ 家族の希望をまとめる

これらを準備しないまま退院してしまうと、退院しないほうが良かったと後悔してしまう場合もあります。しかし、一方で自分で解決しようとする必要以上に時間を費やしたり経済的負担が大きくなってしまいます。まずは在宅医を探し、相談からはじめましょう。在宅ホスピス協会のホームページ内で診療実績を確認しながら探すことが出来ます。

ホームページアドレス：<http://www.homehospice.jp/db/db.php>

多くの方が最期まで自宅で過ごされました

「痛みが強くなったら・・・」「急変したときどうしよう・・・」の不安で在宅を決めかねたり、救急体制の確保を前提に考えるあまり、それまでの病院から在宅へ戻ることを躊躇される方が多く居られます。ご自分の病気はどんな場合に何を目的とした対処が必要なのかを十分に話し合います。当院の場合、自宅で最期まで過ごされる方は85%、さらに緩和ケア病棟との連携で、入院を希望される場合も緩和ケアの治療を継続して入院を叶えます。地元所沢市のがんで亡くなる患者さんの10人にお一人を在宅で支えています。

家に帰りたいから帰る。それが原則です。
家に戻るには早めの手配が望まれます。それだけ穏やかに生活できる時間も確保できます。
病院から退院するように言われたから・・・との消極的理由ではなく、ご家族皆で帰りたいとの思いを持つことが重要です。